

■本書編集の趣旨

英語でも国語でも、文章を書かせてみれば、その人の語学力がいちばんよく分かると言われており、大学入試においても作文の実力は必要不可欠なものである。本書には、入試に出題された多数の問題の中から、長文和文英訳や自由英作文の前提となる基礎力を養成するための、字数が少なくても平易な和文英訳問題を150題精選して収録した。

■本書の構成

1. 大学入試問題から選んだ150題を、文法項目によって15章に分類・編集した。
2. 章の初めに、練習問題に対応する暗唱用の短文 **Model Sentences** を合計150掲載し、着眼点を太字で示した。また、その日本語訳を章の末尾に置いた。
3. 各練習問題に付した「要点」欄で、答案作成の手掛かりになる文法事項や構文を明示し、「語句」「考え方」を適宜収めた。
4. 更に、「関連適語選択問題」を設けて、「要点」に示した事項の確認・定着を図った。
5. 巻末に「長文英訳の実例」を収録して、より長い問題に挑戦する際の発想法や手順を、入試問題に基づいて具体的に解説した。

■本書の活用法

1. **Model Sentences** を暗唱して、重要な文法事項や構文を身に付ける。
2. ノート形式になっているので、答案は必ずペンを持って、解答欄に自分の文字で書くようにする。そのとき、**Model Sentences** や「要点」で示された事項を活用するように工夫し、「語句」や「考え方」を参照しながら、平易な文章を書くように心掛ける。
3. 作った答案は授業の際に、先生の解説や指導によって訂正・確認する。
4. 章末の日本語訳を見ながら、逆にもとの **Model Sentences** が言えるようになるまで繰り返し練習する。

1. 基本時制	4
2. 完了形	10
3. 受動態	16
4. 助動詞	22
5. 不定詞	28
6. 分詞	34
7. 動名詞	40
8. 関係詞	46
9. 否定	52
10. 比較	58
11. 仮定法	64
12. 前置詞	70
13. 名詞節	76
14. 副詞節	一時・原因・理由・対照・結果・目的
	82
15. 副詞節	一条件・限界・譲歩・様態
	88
長文英訳の実例	94

1. 基本時制

MODEL SENTENCES

1. I **like** reading and **read** two or three books a month.
2. I will teach you to skate when you **are** old enough.
3. If you **don't study** hard, you will never pass the entrance exam.
4. She **bought** some flowers at the flower shop near the station.
5. I **will be** transferred to a branch office in Canada in April.
6. I **will help** you with your homework after dinner.
7. **Will** you **send** me an application form for the photo contest?
8. **Shall** we **go** to the baseball game this evening?
9. He thought that many people **would** participate in the parade.
10. Kenta **is playing** a computer game in his room upstairs.

(日本語訳 ⇒ p.9)

1. 「あなたは1日に何回歯をみがきますか。」 「毎日2回みがきます。」 (九州産業大)

《要点 1》現在の習慣的動作を表す現在時制

【参考】「1週間に1回」 once a week 「1か月に3回」 three times a month

関連適語選択問題

1. I usually [1. leave 2. am leaving 3. will leave 4. will be leaving] home at around eight o'clock. (学習院大)

2. 入学して以来すでに9か月が過ぎた。リサは卒業後には先生になるつもりでがんばっている。 (福岡女子大)

《要点 2》副詞節で未来の時を表すのに現在時制を用いる

【考え方】「卒業後には」は時を表す副詞節を用いて書くので、「卒業する」は現在時制にする。また「卒業」には名詞形を用いてもよい。「がんばっている」は「勉強している」でも、或る目的に向かって努力することを表す work を用いてもよい。

3. おとなしくしていれば、あなたは1週間ぐらいできっと起きられますよ。 (玉川大)

《要点 3》副詞節で条件を表すのに現在時制を用いる

【考え方】「おとなしくしている」は現在時制にする。「起きられる」には「病人がよくなって床を離れている」ことを表す be up and around がぴったりであるが、get up や「ベッドを離れる」とも書ける。

関連適語選択問題

2. You must not cross the road until the light [1. will change 2. will have changed 3. is going to change 4. changes] to green. (愛知学院大)
3. If it [1. rains 2. is raining 3. rained 4. will rain] tomorrow, the outdoor concert will be canceled. (大阪経済大)

4. 彼は自分の子供たちに他国の文化を尊重するように教えた。

(学習院大)

《要点 4》 過去のある時点での状態・動作を表す過去時制

語句 「尊重する」 respect

考え方 「人に～するように教える」は 'teach / tell + 人 + 不定詞' にする。

5. 「何時がご都合がいいですか。」「そうですね、夕方6時ごろです。しかし明日は一日中暇です。」

(常葉学園大)

《要点 5》 単純未来の文

語句 「都合がいい」 be convenient

考え方 「明日は一日中暇です」が単純未来の文で will be ～ で表せる。「都合がいい」の convenient が思い出せなかったら、busy の反対の意味の free を使っても表せる。

関連適語選択問題

4. We [1. swim 2. swam 3. had swum 4. were swimming] in the river every day when we were children. (大阪経済大)

5. I hope you [1. are going to 2. are supposed to 3. are to 4. will] like my present. (鹿児島国際大)

6. この仕事は私の手に負えないかもしれませんが、できるだけやってみるつもりです。

(明星大)

《要点 6》 意志未来の文

考え方 「できるだけやってみるつもりです」は「ベストを尽くします」と意志未来の形で書く。「この仕事は私の手に負えない」は、「私はこの仕事をすることができない」とか「私はこの仕事を終えることができない」とすればよい。

7. このコンピュータの使い方を教えてくださいませんか。

(愛知工業大)

《要点 7》 will を用いて依頼を表す表現

語句 「コンピュータ」 a computer

考え方 「～していただけますか」と依頼を表すには Will you ～? か丁寧な Would you ～? の形を用いる。

関連適語選択問題

6. I [1. shall 2. can 3. will 4. may] try as hard as possible to write a good essay for the contest. (創作問題)

7. [1. Do 2. May 3. Must 4. Will] you please open the door? I want to come in. (千葉商科大)